

## メルヘン街道と苔の森

塚田 實

七月末蓼科のペンションを訪れた。飼っていたチワワが老いて遠出が難しかったのと、コロナの蔓延で旅行はしばらく控えていたが、犬は昨年亡くなり、コロナ対策も見えてきたので、久し振りに涼を求めて出かけることにした。

蓼科近辺でまだ訪れていない気になるところがあつた。白駒池と池を囲む苔の森だ。

二十八日運良く雨の天気予報は外れて晴れたので、朝一番に出発した。ペンションから苔の森までは三十分弱のドライブだ。国道二九九号、いわゆるメルヘン街道を行く。日光のいろは坂を凌ぐつづら折れも楽しい。途中の日向木場展望台で一休みする。南八ヶ岳、南アルプス、中央アルプスが遠くに展開し、茅野の町並みも間近に見える。暫く運転すると標高二二七メートルの麦草峠を越える。国道としては日本で二番目に高い峠だそうだ。朝が早いせいか白駒池駐車場は空いていた。

白駒池は標高二一〇メートル以上の湖としては日本最大の天然湖で、駐車場から池に到る道の両側と池の周辺が苔の森だ。ここは日本蘚苔類学会から「日本の貴重な苔の森」に選ばれ、四八五種類の苔が生息しているそうだ。入り口の看板には池まで行きは十五分、帰りは十分と表示してあつたが、木道の登りは意外にきつい。しかも途中苔の森を眺めながらの歩きだから、池まで倍の三十分はかかった。樹齢数百年のコメツガ、トウヒ、シラビソなどの原生林の下は様々な個性を持った苔がどこまでも続き、緑の絨毯のようだ。地上が緑に埋め尽くされた森は神秘的でもある。

苔を眺めていると、樹の間から一瞬日が差し、夜の雨で濡れていた苔も光を浴びて幻想的に輝いて見えた。

白駒池に辿りつくと、青空が広がり水面は風に揺れて波だっている。湖畔を木道に沿って少し歩き、静寂の中で一休みし、スマホを見ると圏外になっている。せめて早く電波の届くところに戻ろうと、急いで駐車場に引き返した。

(いつかあの幻想的な光景を絵に描いてみようかな)